

おしえて!



# わん<sup>🐾</sup>にゃん通信



2017/01/25 No.8

空気が冷たく感じられ、ワンちゃんやネコちゃんが暖房器具から離れないような気温になってきました。早く暖かくなるといいですね。人も動物も寒い日が続くと、運動量が減り飲水量も減ります。飲水量が減るにもかかわらず、尿量が多くなっている場合があります。実は尿量の変化は、腎臓の病気を発見する手がかりになることがあるのです。今回は「腎臓病」と、尿の変化に気付ける「尿検査」のことをお伝えしようと思います。

## 成犬・成猫の3大死因

- ・がん（腫瘍）
- ・腎臓病
- ・心臓病



これらの病気はワンちゃんネコちゃんが長生きするようになり、多くみられるようになった病気です。

特にネコちゃんは腎臓病が多く、年齢の上昇と共に発症率も高まり、9歳以上を目安にネコちゃんの約30%は腎臓病になると言われています。

## 腎臓病の進行

ここでワンちゃんとネコちゃんの腎臓が悪くなった時の症状を簡単にご説明します。

猫・・・濃い尿が作れなくなる→薄い尿が沢山でる→脱水→老廃物蓄積→尿毒症症状→死亡  
犬・・・蛋白尿、高血圧（濃い尿は作れる）→老廃物蓄積→死亡

ネコちゃんは腎臓にある尿細管という「濃縮」に関わる場所の病気が多く、薄い尿がでます。尿が薄いと多量の尿がでるので喉が渇き、脱水状態になります。ネコちゃん自身が水をよく飲んでも完全には脱水状態を改善することが出来ず、慢性的な脱水状態で生活することになり、腎臓病はゆっくり進行していきます。

一方ワンちゃんは、腎臓にある糸球体という「ろ過」の役割をする場所の病気が多いので蛋白尿になりやすくなっています。蛋白尿は腎臓病を短期間で具合悪くします。飲水量は多くなる場合もあれば、以前と変わらない場合もあります。高血圧も腎臓に負担がかかるので、腎臓病の悪化要因になります。

**同じ腎臓病でもネコちゃんよりワンちゃんは短命の傾向が強い！**

### 早期発見には尿検査

血液中に老廃物がたまるようになってからでないと、血液検査の数値にほとんど変化は見られません。

血液検査に変化が出る頃には、腎臓は大分悪くなっています（75%は悪くなっている）。ですので、早期発見には飲水量や尿量の測定、尿検査が大事になってきます。

### 採尿のタイミング

病院では膀胱から直接採尿することが出来ませんが、病院が苦手な子や、病院に来る前に尿をしまい、採尿出来るほど尿が溜まっていない子もいます。尿検査の種類にもよりますが、蛋白尿や薄い尿かは、お家でとった尿でも検査に使用することができます。

検査をするのに最適な尿は朝起きた時の尿です。

ワンちゃんは食後に蛋白が増えるので空腹状態の尿が良く、ネコちゃんは軽い脱水時に濃い尿が作れるか、食事や飲水で尿が薄くなってしまうので、朝起きた時の尿が適しています。



ペットシーツの裏側は水をはじくので尿を取るときに驚いて尿を止めてしまう子や決まった場所で尿をする子などの採尿には便利です。

早期発見の為には、ワンちゃんネコちゃんの普段の様子を知っている飼い主様の情報や協力がとても重要になってきます。排尿の様子を教えていただいたり、ワンちゃんやネコちゃんを連れてこずに、尿だけを病院にお持ちいただいても結構です。まず手始めに尿検査を試みるのはいかがでしょうか。

シンドウ動物病院

